

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	必修・選択	選択	授業形態	演習	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NK230	科目名	子どもと音楽表現Ⅳ	担当者名	泉谷・内田・佐々木・笹森・千葉・三上・矢野
授業の概要	<p>領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの理解を踏まえ、幼児期の音楽表現を実践するための知識・技能・保育の実践力を身に付ける。</p> <p>授業の形態は、ピアノ・打楽器・ギターより任意のクラスに分かれて行う。</p>				
科目の到達目標	<p>(1) 様々な表現の基礎的な知識を活かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p> <p>(2) 音楽表現に関する基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>(3) 保育実践における音楽表現を豊かに展開できる力を身につける。</p>				
DPの観点	②表現力(30) ⑥専門知識・技能(30) ⑧実践力(20) ⑨主体性(20)				
授業時間外学修(予習・復習)	毎回の授業内容の予習・復習(60分以上)を行う。(※練習する習慣を身につける)				
フィードバックの方法	ロイロノート、レッスンカルテ等を活用し行う。				
単位認定の要件	期末試験の演奏発表を行うこと。				
評価の方法・割合(%)	授業での課題曲数及び達成状況 60%(※個々の進度に応じて「課題曲」「弾き歌い合格数」等の達成目標を明示) 期末試験(演奏発表) 40%				
履修上の注意事項	<p>・「子どものうた一覧」シートの裏面の「目標数」を学期の初めに記入し、学期の終わりには「合格数」を記載すること。</p> <p>・前期から継続し、「保育者になるためのピアノ教本」に取り組み、「子どものうた一覧」シートに合格印を増やす。</p> <p>・使用テキスト以外の曲(実習先からの課題等)についても「子どものうた一覧」シートに記載し、継続して取り組む。</p>				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、楽器の特性とスキルを新たに、または継続して学ぶ。	⑥	レッスンカルテ
2			それぞれの楽器の特性を理解し、保育実践場面での展開を考える。	⑥	レッスンカルテ
3			各楽器演奏(ピアノ、打楽器、ギター)の基礎・応用について演習を通して学ぶ。	⑨	レッスンカルテ
4			スキルを修得するための基礎となる練習課題に取り組む。	⑥	レッスンカルテ
5			クラス全体で発表会(模擬保育)を協働して立案する(アンサンブル含む)。	⑧	レッスンカルテ、ディスカッション
6			読譜を通して音楽をイメージする力(内的聴感)を養う。	⑥	レッスンカルテ
7			演奏課題を通して、ビート、リズム、フレーズ、ハーモニーの感性を養う。	②	レッスンカルテ
8			演奏課題の形式、コード進行を理解し、アレンジする応用力を身につける。	⑥	レッスンカルテ
9			発表会(模擬保育)の課題及び保育の実践曲の取り組みも継続していく。	⑨	レッスンカルテ
10			発表会(模擬保育)を通し、保育における子どもの姿を考察し振り返りを行う。	②	レッスンカルテ、グループワーク
11			期末の発表課題を立て、目標を達成できるよう計画を立て実践する。	⑧	レッスンカルテ、グループワーク
12			期末の発表課題を通し、保育実践への展開について構想する。	⑧	レッスンカルテ、グループワーク
13			練習の過程において、課題とその克服方法を考える。【ICTの活用】	⑨	レッスンカルテ、グループワーク
14			発表課題を通し、表現活動が含有する様々な子どもの育ちの姿を考察する。	⑥	レッスンカルテ
15			発表課題を実践し、振り返りを活かし、課題を抽出し改善する。【ICTの活用】	②	ルーブリック
期末試験			演奏発表を行う。(※ピアノクラスは「弾き歌いの演奏課題」とする)	②	担当教員からの評価のフィードバック

使用テキスト	「保育者になるためのピアノ教本～子どもの歌でいつのまにか上達する～」山本学、エイデル研究所
参考文献 参考URL	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
備考	

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--